

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

一人ひとりの笑顔が輝く和泉支援学校

～わかり合う、支え合う、育ち合う～

学校が家庭や地域関係機関と連携・協力し、個々の児童生徒のニーズに応じた支援を推進し、児童生徒の自立と社会参加を目標に、小学部～中学部～高等部の一貫性のある教育活動を展開する。

(育てる子ども像)

基礎的な体力、知識、技能およびコミュニケーション能力を身につけ、地域の人々と共に社会参加していく力を養う。

2 中期的目標

- 1 教員の専門性を向上し、教材教具の工夫・活用を進め、児童生徒一人ひとりの障がいや発達状況に応じた教育を充実する。 【担当：首席、指導教諭、総務部、研究部、支援部、ICT教育推進部】
- (1) 個別の教育支援計画、個別の指導計画の様式を活用しやすいものにし、実効性を高める。
- (2) 自閉症の児童生徒に対する視覚的支援の活用を定着させる。そのために外部専門家の巡回による実践的研修を実施する。
- (3) 授業評価活動（授業アンケート、公開授業）を取り入れ、授業力向上を図る。
- (4) 関係機関（教育、医療、福祉、労働等）と協力・連携して教育支援を推進する。
- ※ (1) (3) は平成 27 年度までに学校教育自己診断で保護者の肯定的意見 90%をめざす。
- (3) は、経験年数の少ない教員に対する校内支援体制を平成 27 年度までに確立する。
- (2) は平成 27 年まで巡回相談を続け、教員の専門性向上をめざす。また ICT を活用した授業を推進し、視覚支援の教材の蓄積を進める。
- (4) は連携を深めケース会議を年 3 回実施する。
- 2 自立心と規範意識を養い、社会参加に向けた生きる力の育成を図る。 【担当：首席、進路指導部、教務部】
- (1) 個々の生徒の希望と状況に基づく進路保障に向け、職場等の新規開拓に取り組む、また高等支援も含めた進路先の情報提供を小学部から行う。
- (2) 平成 25 年度に作成した和泉支援版キャリアプランニングマトリックスを活用した小学部～中学部～高等部の一貫した指導を実施する。
- (3) 児童生徒の「生きる力」を育成するため、自主的な取り組みを推進する。
- ※ (1) は中学部・高等部の進路希望の実現 100%をめざす。
- (2) は平成 28 年度までに実施計画を作成する。
- (3) は児童会・生徒会活動を通して自立心・自尊意識を高める。(各学部、地域等との交流学习を年間 3 回実施する)
- 3 安全安心な学校づくりを推進する。 【担当：首席、行事推進部、健康・安全部、生活指導部、通学指導部】
- (1) 防犯・防災計画及び危機管理マニュアルを毎年検証し、安全で安心な学校づくりを推進する。
- (2) 健康教育（食育を含む）を推進する。
- ※ (1) はより実際に即した訓練を年 3 回実施する。
- (2) は児童・生徒への指導の検証をするとともに保健だよりや食育ニュースの充実を図るため毎月 1 回発行する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 26 年 10 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>1. 結果</p> <p>自己診断は全校保護者 313 名を対象にしたアンケート方式で 66.4% (昨年度 64.8%) の回収率であった。内容は 1) 学校の施設・設備に関して、2) 教職員に関して、3) 教育内容・学校の体制に関して、4) その他、の 4 分野で以下分野別各項目の結果。H26 年度 (H25 年度) の%</p> <p>1) ・教育環境について…肯定的意見 68 (78)、否定的意見 26 (20)</p> <p>・教材・教具について…肯定的意見 76 (81)、否定的意見 12 (10)</p> <p>・設備の安全について…肯定的意見 74 (76)、否定的意見 19 (20)</p> <p>・通学バスについて…肯定的意見 87 (89)、否定的意見 8 (6)</p> <p>2) ・障がい理解について…肯定的意見 87 (84)、否定的意見 11 (12)</p> <p>・子どもの様子のお知らせについて…肯定的意見 94 (92)、否定的意見 6 (7)</p> <p>・保護者対応について…肯定的意見 93 (90)、否定的意見 5 (7)</p> <p>3) ・教育支援計画について…肯定的意見 88 (90)、否定的意見 6 (8)</p> <p>・指導内容・方法について…肯定的意見 84 (85)、否定的意見 11 (11)</p> <p>・集団作りについて…肯定的意見 86 (86)、否定的意見 6 (8)</p> <p>・特別活動について…肯定的意見 83 (85)、否定的意見 6 (7)</p> <p>・進路指導について…肯定的意見 75 (78)、否定的意見 11 (14)</p> <p>2. 分析</p> <p>1) において、教育環境、施設・設備の肯定意見が 8 割に満たない。昨年度よりさらに肯定的意見が減少している。PTA の校内点検でも教室不足が毎回指摘された。3) において進路指導で「わからない」という回答が 14%あることについて、小学部、中学部の保護者に対して、キャリア教育は小学部から始まるという意識を保護者が持てるように啓発が必要だと思う。また、回収率についても、学校としての取り組みであるということの理解が深められるよう、またこの結果が学校をよくするためにつながっているということについて、教職員、保護者に対してしっかり啓発する必要がある。</p> <p>3. 改善策</p> <p>1) 施設設備においては、学校としても委員会に総合的な改善策の検討をお願いしているところ。</p> <p>3) 小学部および中学部の進路ニュースで高等支援学校等について 3 学期に紹介した。</p>	<p>第 1 回 (H26.5.28)</p> <p>・学校経営計画については、地元と事前に十分な打ち合わせをして、様々な行事を行う必要がある。引き続き検討を進めてほしい。</p> <p>・交流及び共同学習については、具体的に進めていくためにも地域の教育委員会や学校と連携の強化が大切である。</p> <p>・進路指導について、定職率が非常に高いことは大変良いことであり、キャリアプランニングマトリックスの活用と成果についても合わせて、他の支援学校に発信しても良いのではないかと。</p> <p>・個人情報紛失事案については、学校組織として、全職員がきちんと研修ができるシステム作りや倫理意識を高めるための取り組みが必要である。</p> <p>・教科書については、家庭との連携が必要で、有効な教科書の使い方について教職員が保護者に伝える場の検討に努めてほしい。</p> <p>第 2 回 (H26.11.19)</p> <p>・学校評価自己診断等アンケートの結果について、情報共有できるよう検討をすすめてほしい。教職員の回収率が 90%を 100%にするための一層の努力をお願いしたい。</p> <p>・危機管理マニュアルについて、障がい者が安心して避難できる環境をどう確保するか、災害時に対応をしている教職員のケアについての対策も検討を進めてほしい。</p> <p>・学校とPTAが情報共有するために、学部懇談会が年 2 回あっても良いのではないかと。</p> <p>第 3 回 (H27.2.4)</p> <p>・学校経営計画及び学校評価について、ほとんどが達成できている。学校情報の E-mail による配信の今後の活用を考えてほしい。</p> <p>・児童生徒の学校評価の結果については多くが、肯定的に満足しているというプラス評価をしている。</p> <p>・交流及び共同学習の推進について、地域と支援学校がより密接に結びついていく試みを考えていることは大事なことで、進路指導において離職率が非常に低いという報告について、高等部教員の様々な努力の結果ではないかと。</p> <p>・個人情報の問題については、なにより教員一人ひとりのモラルを高める必要があり、そのためにはどのような取り組みが必要か日々研鑽をしていただきたい。</p> <p>・児童生徒数が急増していることについて、今後 4、5 年の後には 400 名を超える勢いであるということが明らかになった。府教委へ強く要望するよう学校長に提言した。</p>

府立和泉支援学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 障がいや発達状況に応じた教育の充実	1 教員の専門性および授業力の向上 2 地域や関係機関の連携強化	① 個別の教育支援計画、個別の指導計画の記入例を作成し、校内イントラに保存することで、すべての教員が参照活用できるようにし、専門性の継続をはかる。 ② 外部講師による巡回相談を実施し、特に自閉症のある児童生徒への具体的支援方法（視覚支援等）の実践を進める。 ③ 授業アンケートや公開授業を実施し、教員の授業力アップを図る。 ④ ICTを活用した授業ができるよう、実践を通じた研修を行う。 ⑤ 地域自らが障がいのある児童生徒の支援を推進できるよう、請負型から推進型にかえていく ・インクルーシブ教育推進にむけ、地域のセンター的役割の一層の強化をはかる。 ⑥ 居住地交流の実施にむけ地域と連携を強化する。	① 記入例を学部別、発達段階別に作成し校内イントラに保存する ・個別の教育支援計画を学期に一回学部ごとに検討する ② 年8回実施する。 ③ 学校教育自己診断の障がい理解で肯定意見8割を達成する。 ④ ICTを活用した公開授業を年2回実施 ・学部ごとにICTを活用した授業研究を1回行う。 ⑤ 地域支援推進のモデルを年度内に作成する。 ・校区の市町教委の指導主事協議会を学期1回開催し、インクルーシブ教育推進にむけ連携する ⑥ 居住地交流についてニーズの把握する。	① 記入例を学部別、発達段階別に作成し校内イントラに保存することにより利便性が高まり活用できた（○） ・個別の教育支援計画を学期に一回学部ごとに記入方法を具体的に検討し活用について理解を深めることができた（○） ② 年8回実施でき、生徒理解及び支援方法が深まった（○） ③ 学校教育自己診断の障がい理解で肯定意見8割を達成できた。（○） ④ ICTを活用した公開授業を2回実施し、その結果、市教委主催の講習会に講師を派遣した（○） ・授業研究は実施できた（○） ⑤ 地域支援推進のモデルを策定し、実施のための分掌を新年度から立ち上げる（○） ・指導主事との協議会を学期に1回実施できたことにより地域との連携強化ができた（○） ⑥ 新年度から新たに中学部で居住地交流を実施する方向で検討できた（○） ・インクルーシブ教育を強力に推進するために新分掌を来年度より発足させる。（◎） （新分掌は、①居住地交流・学校間交流②共同学習③①②実施のための教育課程研究を1本化）
2 生きる力の育成	1 卒業後を見据え、個々の児童生徒に合わせた進路指導を充実 2 児童・生徒の自尊意識の向上	① 進路指導部が中心になり職場実習先、就職先の新規開拓を進め、就職希望生徒全員の就労をめざす。また、外部機関とも連携しながら定着指導を徹底する。 ② 昨年度作成したキャリアプランニングマトリックスを活用し、小・中・高一貫したキャリア教育を充実させる。 ・進路ニュースを定期的に発行し、情報提供に努める。 ③ 保護者のニーズを考慮し、施設見学会を実施する。 ④ 教員の進路指導の実践力の向上をはかる。 ⑤ 児童会活動・生徒会活動等の活性化を図り児童・生徒の自尊意識を高める	① 年間15社新規開拓 ・就職希望者全員の就労 ・就労と能開校進学あわせて2ケタをめざす ・卒業後3年の離職率15%以内とする。 ② キャリアプランニングマトリックスに基づき各学部1年から実施 ・中学部・高等部の進路希望の実現100% ・進路ニュース学期に1回発行 ③ 進路先見学会を夏季休業中に1回実施する。 ④ 障がい者雇用企業での教員の体験実習（1回2人） ・進路指導部による校内進路研修（教員向け）を開催（年2回） ⑤ 通学路や学校周辺の清掃作業を月1回以上実施 ・高等部課外クラブ大阪大会以上をめざす ・本校キャラクターの積極的活用により、本校児童生徒の一体感の育成を図り、本校イメージを地域に発信する（HP、冊子、プリントに掲載、PTA行事、学校行事に登場など）	① 年間新規開拓15社を達成した（○） ・年度希望者8人全員とさらに2人の就労を達成した（◎） ・卒業後3年の離職率13%（○） （離職した1人は、ステップアップをめざしている） ② 各学部とも実施し、高等部では公開授業を一部実施した（○） 中学部高等部とも進路希望100%達成できた（○） 進路ニュースは、学期に1回発行できた（○） （なお、学校教育自己診断を受け小学部および中学部の進路ニュースで高等支援学校等について3学期に紹介した。） ③ 保護者向け進路先見学会は夏期休業中に1人複数回参加し、保護者ニーズにこたえることができた（○） ④ 特定子会社での体験実習も実施できた（○） ・障がい者を雇用している会社の方を講師に招き教員向け、保護者向けにそれぞれ研修会を実施した（○） ⑤ 通学路や学校周辺の清掃作業を月1回以上実施できた（○） ・高等部課外クラブは、残念ながら大阪大会出場とならなかった。（△） ・美術の作品展に応募した作品が全国の優秀賞に選ばれた（○） ・運動会のパンフは、本校キャラクターを使った作品を生徒が作成して盛り上げてくれた。（○）
3 安全安心な学校づくりの推進	1 安全安心な学校づくりの推進	① 警察の協力を得て、教職員対象の実践的防犯訓練を実施する。 ② 教職員による行方不明対応の訓練の実施 ③ 教職員、PTAによる施設安全点検を定期的に行い、迅速に対応する。 ④ PTAと連携し、大規模災害を見据えた防災対応を具体的に進める。 ⑤ 健康教育の内容の充実を図るため、保健だよりや食育ニュースを定期発行する。 ・児童・生徒の健康状況等を把握する ⑥ 地域との協働をすすめる	① 年1回実施 ② 年1回実施 ③ 学期に1度の点検を実施 ④ 事業継続計画案を作成 ・校内備蓄品の拡充 ・E-Mailの活用を図るためE-Mailを活用したPTAと連携し学校情報を月1回配信する ⑤ 月1回の発行 ・健康チェック表に基づき児童生徒教員の様子を毎日管理職に報告させる ⑥ 近隣の公立中学校と生徒指導や支援教育で教員研修を交互に行う（年間3回） ・防災避難指定について和泉市と意見交換をすすめる（協議を始める）。	① 年1回実施し、警察から真剣な態度で取り組んでいると評価していただいた（○） ② 教職員が現場で迅速に対応できる力を高める、実践的訓練を実施した（○） ③ 学期に1度の点検を実施しているが、施設設備の不備は学校だけでは対応できなくなっている（○） ④ 事業継続計画案を府立支援学校としては初めて作成した（○） ・校内備蓄品を拡充した、また備蓄水は更新した（○） ・E-Mailの活用は、PTAと連携できたが月1回配信できなかった（△）（来年度は、HP更新と同時に配信する体制にした） ⑤ 月1回発行できた（○） ・健康チェック表に基づき児童生徒教員の様子を毎日管理職に報告させることにより、素早い対応ができた（○） ⑥ 支援学校での生徒指導の課題を地域の生徒指導担当者・支援教育担当者に発信し、相互に意見交換した（8月）（○） ・和泉市の会議で災害時の支援学校の様子等を伝えたが意見交換まではできなかった（△）